

遠賀川流域通信

発行日 2005年10月15日 発行責任者 特定非営利活動法人 遠賀川流域住民の会 理事長 窪山邦彦

遠賀川読本「もっと知りたい遠賀川」を作成中

筑豊から北九州の響灘に注ぎ、古代から今日に至るまで、私たちに恵みを与えてくれた母なる川「遠賀川」わが国でも最も早くから稲作文化を開花させ、石炭時代には日本の近代化を支えてきた。人と自然、歴史や文化とともに遠賀川の大切さを子どもたちに伝えたいと「もっと知りたい遠賀川調査研究会」を設置、本の作成に取り組みました。

新しく国土交通省遠賀川河川事務所長に赴任された松木洋忠 所長にごあいさつをいただきました

遠賀川流域住民の会のみさんの実践されている日々の精力的な活動に敬意を表します。また、流域を網羅した遠賀川読本はこの地域の方々の歴史的、地理的な知識を深めるものと期待しています。遠賀川は水質が悪化した時



国土交通省遠賀川河川事務所長 松木洋忠氏

遠賀川は古代より流域で生活している者の命の水・生産の水・輸送の水等として常に活用されてきました。この営みは今も変わらず流域で日々生活している私たち大切な命の水であります。十八年前飯塚市で始まったILOVE遠賀川事業は徐々に流域に広がり遠賀川と接することにより地域環境・水質保全・環境廃棄物・不法投棄遠賀川の利活用・水害対策・子どもたちの環境教育・流域

期があり川へのゴミ投棄が増えた反面水辺のにぎわいが失われていきました。しかし、現時点では水質を高めようとする状況が改善に向かいつつあるのではないかと感じています。今後は、地域の方々が遠賀川を自分の川として愛し、次第に美しくなっていく姿を喜んでもらえることを願っています。その一助となるべく事務所をあげて努力していくこととしまして努力しますが、併せて遠賀川流域住民の会のご活躍を期待しております。

の歴史発見・動植物の保全調査・川づくり・まちづくり等、流域三十二市町村で住民が自ら仲間と行動を起し、行政と連携して日々取り組んでおります。そのような取り組みの中で遠賀川流域には古代より今日まで、あまりにも私たちが知らないことが沢山あります。堀川はいつ誰が掘ったのか。王塚古墳はいつごろ誰が造ったのか。石炭は日本の近代化に役に立ったといわれませんが、具体的にどの川に役に立ったのか。遠賀川は古代より流域の人たちの関りはどうだったのか。山上憶良はなぜ稲築町に来たのか等。そこで日々このようにこれに取り組む研究調査をさせていただき、子どもたちが理解できる言葉でわかりやすく、通年で整理し一冊の本にまとめ、流域の小中学校に配布し、もっと遠賀川流域を知ってほしい、生まれ育った故郷の歴史を知り元気をだしてほしいのです。そして、遠賀川の大切さを知ってほしいのです。

もっと知りたい遠賀川調査研究会メンバー (敬称略)

西谷 正	代表・監修	九州大学名誉教授
島田 光一	古代・縄文・弥生時代	飯塚市歴史資料館係長
恵良 宏	中世・平安時代 穀倉地帯と遠賀川	皇学館大学教授
小川 賢	近世・江戸時代 黒田範の堀川	古文書研究会
長弘 雄次	近代・現代・遠賀川と石炭関係	九州共立大学名誉教授工学博士
竹下 真治	河川環境関係・遠賀川の移り変わり	遠賀川河川事務所調査課長

「もっと知りたい遠賀川」は流域市町村の小中学校、学校、各自治体図書館、関連機関に配布する予定です。印刷物としては、A四版カラー印刷で二百五十ページを予定しています。

水面快走 第2回 遠賀川カヌー一駅伝大会

八月二十一日(日)遠賀川で遠賀川カヌー一駅伝大会を開催



当日は小雨にもかかわらず遠賀川(飯塚市川島)に、嘉飯山地域を中心に、久留米からも小学生や一般計5人1組が参加、総勢九チームが参加して、川岸からの声援を受けながらタイムを競った。

この大会は遠賀川流域の環境や水質等の向上を図るため参加者に水面から河川に触れ肌で遠賀川を感じてもらおうと実施しているものです。

競技は川岸近くの中州を回る一周五百メートルのコースで行われ、各チームは三十秒ごとに次々とスタートした。

競技終了後、全員で周辺河川敷の清掃作業を行った。その後豚汁やおにぎりで昼食、楽しい一日を過ごした。



順位

一位	カヌー愛好会
二位	チームまつおか
三位	穂波海洋クラブA
四位	穂波海洋クラブB
五位	嘉麻川キッズ
六位	嘉麻川キッズB
七位	稲築
八位	川島子供会
九位	嘉麻川キッズC

第4回 芦屋海岸クリーンキャンペーン

九月十八日(日)芦屋海岸でクリーンキャンペーンを開催

海に面した場所にある素晴らしい景観であるべき芦屋町が、残念ながら人々の出すゴミによって無残な姿になっているのが現状です。芦屋住民ではないからと知らん振りする人がいるかも知れませんがこれは遠賀川流域で生活する私たちの責任です。

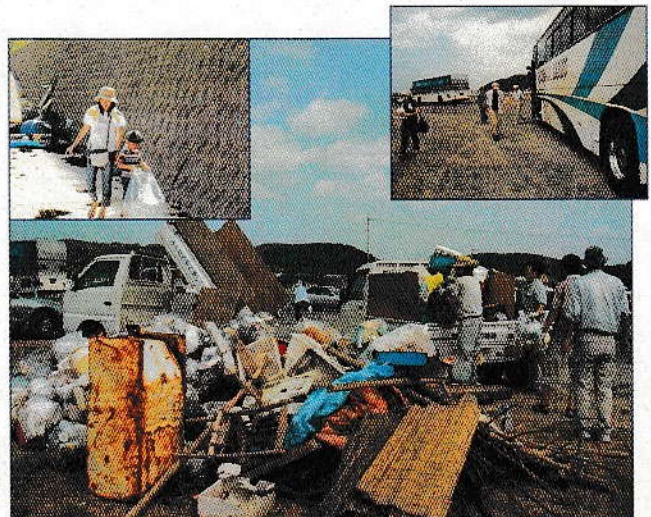
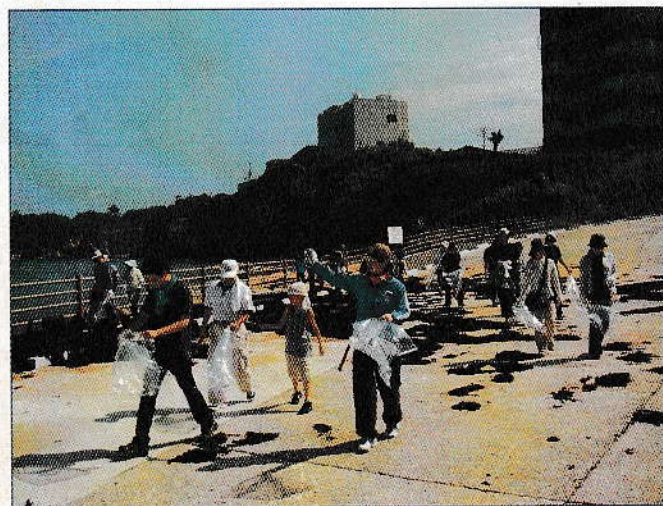
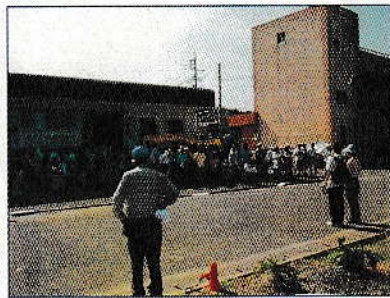
一人一人が考え方を換え、少しでも環境にやさしい生活を送るようになれば、今の最悪な状況を抜け出せるかもしれません。

流域のみんなで、子どもたちにも胸を張って引き渡すことの出来る遠賀川づくりを努めたい、という想いから今年もクリーンキャンペーンを開催しました。

北九州地区・中間地区・木屋瀬地区・直方地区・飯塚地区・田川地区からバスや車で百五十人が集いました。

芦屋町の鈴木町長より続けていくことが大切、と挨拶をいただきました。

終了時にはトラック何台にもなるゴミの山、山・山・山



第十八回 I LOVE 遠賀川

I LOVE 遠賀川実行委員会主催



「母なる遠賀川」にやさしさと恩返しをとの思いをこめて、川やその周辺を清掃する「I LOVE」

遠賀川」を十月九日飯塚市遠賀川川敷で開催した。集合場所のあいタウン前河川敷では二千五百人の老若男女がゴミ袋を持って集った。曾根靖史実行委員長の挨拶後、午前十時、花火を合図に、約三キロの川沿いを歩いて清掃作業を行った。人の手の届かない川の中は石炭運搬船「五平太舟」に乗ってゴミを取り除いた。

約2時間後、不燃ゴミと可燃ゴミの袋を持った参加者が帰ってきた。きれいに見えた川も参加者によって沢山のゴミが拾われた。作業終了後、河川敷に座って、昼食に準備したおにぎりや味噌汁（飯塚市役所職員組合の協力）・だご汁（池坊飯塚橋支部千種会の協力）を食べた。大人も子どももニコニコと笑みが見られた。

この取り組みはボランティア団体や市民が「I LOVE 遠賀川実行委員会」を毎年結成し、今年で十八回目を迎えた。参加者から「遠賀川を大切にしましょう。昔のようなきれいな川にして子や孫に残しましょう」との声に、自らの心が癒されるひと時。また来年会いましょう。



曾根靖史実行委員長



お昼はみんなで!



「みどりの募金」運動が行なわれた



第一中学校の生徒による吹奏楽演奏が広い河原にそうかいにひびき参加者を楽しませてくれた



裏千家淡交会筑豊支部の皆さんが野点をして参加者を和ませてくれた



五平太舟で川の中のゴミを取り除いた



タイヤも自転車もあったゴミの山



小さな紙切れもきれいに



ポイ捨てよそうキャンペーン2005

大成功

ありがとうございました

市伊田川五月五日、神幸祭が行われ、神幸祭の生きたま

山笠は川を渡れず橋を渡った。そして今年は、何と御輿や山笠の行く手にゴミが見受けられなかった。そうなのです。苦心の末、改良に改良を重ねた二百五十個の特製ダンボール製ゴミ箱と、田川市職員等の延べ二百名を超えるボランティアの威力。着飾った見物客や子どもたちは可燃不燃をきちっと仕分けしてゴミ箱に入れていく。不届きな客の散らかしたゴミはボランティアが即刻拾い続ける。これで完璧! 五十八名に及ぶ応援します券の協力をいただいた方、本当にありがとうございました。ボランティアの方々、本当にご苦労様でした。やれば出来る、を証明した神幸祭となった。

「絶対お徳! ポイ捨てを止めるダンボールゴミ箱、私も応援します! 券」



川渡り神幸祭 ポイ捨てよそうキャンペーン

田川未来塾主催

遠賀川の生きものたち

ツリスガラ

ツリスガラ科



遠賀川口に近い芦原に冬期越冬のため冬鳥として渡来する。スズメよりも小さい可愛い体だが、振り向くとなんとサングラスをしたような太い過眼線を持ちコギヤルならぬ小ギヤングといった風貌に驚かされる。といてもあまりに小さいので可愛さが二倍三倍になるのは仕方ないところ。芦原の茎に掴まり、ときどき空へ飛び出して、昆虫などを捕食する。同じところを移動しての行動はすぐツリスガラとわかる行動である。小集団ですごし、草の実や種子等も食べているらしい。しきりに葦やセイタカアワダ

チソウなどを揺らしているので居場所がすぐに見当がつく。従来は九州や西日本で越冬する程度だったが、範囲を少しずつ関東へも広げているらしく、多摩川支部の情報では一二例の観察報告があるとのこと。芦原が少なくなり彼らも越冬地を広げているのかもしれない。

オオジュリン・コジュリン・ベニマシコなども冬期に芦原で越冬するので識別注意のこと。しかし、サングラスの覆面を覚えておけば簡単に識別できる。彼らを観察したい人はせめて双眼鏡ぐらいは用意してほしい。

日本野鳥の会筑豊支部
松尾節朗

飛び出せば芦へ隠れて吊巣雀

節朗

母なる遠賀川にあなたのやさしさを

特定非営利活動法人遠賀川流域住民の会

理事長 窪山邦彦

事務局長 植木康太

問い合わせ先

TEL・FAX 0947-45-0594

ホームページ <http://onga.sabax.jp/>

若水くみ

～～嘉穂町の伝統行事～～

若水くみは、年の神を迎え、一年間の家族の健康と五穀豊穡を祈願する行事で、昔は年男（世帯主か長男）が暗いうちに起きて井戸や近くの川から水をくんで神棚に供えていました。

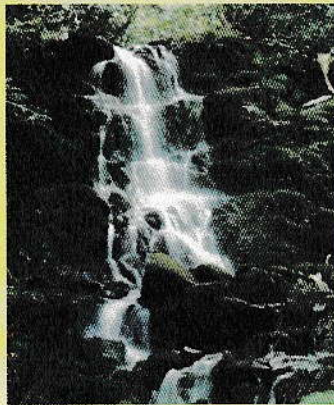
この伝統行事を遠賀川の源流点で行い、新しい年の原動力と致したく、ここにご案内申し上げます。

I LOVE 遠賀川 in 嘉穂実行委員会
実行委員長 田尻 勝

日時 平成18年1月1日 元日
午前8時～午前10時

場所 嘉穂町大字桑野 遠賀川源流広場
(国道211号線 嘉麻峠手前)

- ・お雑煮サービス
- ・国道沿いに車が駐車でき、その場にて竹筒に入れた若水を配布します(先着100名様)。
なお、雨天・積雪の場合は中止します。



連絡先 事務局 松岡 朝生
職場 0948-57-1212
携帯 090-4581-8649

新玉の年の始めの水くみて
よろずの宝われぞ汲み取る

インフォメーション

遠賀川流域住民の会活動報告会開催

日時 2005年12月3日(土)

場所 飯塚市のがみプレジデントホテル

遠賀川流域住民の会主催研修視察

日時 2005年11月19日(土)20日(日)

視察地 大野川(大分県)

※大野川は南に宮崎県の祖母山、北に久住山、西に熊本県の阿蘇山とし、竹田盆地を貫き大分平野に出て別府湾に注いでいる。その全長は107km。関係市町村は2市13町4村、流域の広さは1.465km²。九州第6位の広さを持つ川である。

※平成10年、大野川流域の川を愛する人々が連携して大野川流域ネットワークキングを設立、11月1日を「大野川の日」として一斉清掃を行っている。

※平成12年、活動の拠点として大野郡大飼町に河童小屋を建設

※平成13年、大野川流域懇談会を発足。市民参加で「いい川」

「川を活かしたまち」づくりを目指している。

※平成14年、特定非営利活動法人河童倶楽部設立

大分県の素晴らしい川「大野川」の人と自然と文化・歴史に出会いに行きませんか。詳しい内容については事務局までお問い合わせ下さい。事務局 電話(0947)45-0594